

## 2018年英文レター誌 SOLA 論文賞受賞者について

SOLA 編集委員長 竹見哲也

英文レター誌 SOLA 編集委員会では、1 年間に SOLA に掲載された論文の中から、毎年 1 編程度の優秀な論文を選定し、SOLA 論文賞 (SOLA Award) として顕彰することとしています。2018年は、下記の通り、伊藤耕介氏 (琉球大学) ほかによる論文を SOLA 論文賞として決定いたしましたので報告いたします。

SOLA, Vol. 14, pp.105-110, doi:10.2151/sola.2018-018.

Analysis and Forecast Using Dropsonde Data from the Inner-Core Region of Tropical Cyclone Lan (2017) Obtained during the First Aircraft Missions of T-PARCII

by Kosuke Ito<sup>1,2,6</sup>, Hiroyuki Yamada<sup>1</sup>, Munehiko Yamaguchi<sup>2</sup>, Tetsuo Nakazawa<sup>2</sup>, Norio Nagahama<sup>3</sup>, Kensaku Shimizu<sup>3</sup>, Tadayasu Ohigashi<sup>4</sup>, Taro Shinoda<sup>5</sup>, and Kazuhisa Tsuboki<sup>5</sup>

<sup>1</sup>University of the Ryukyus, Nishihara, Japan

<sup>2</sup>Meteorological Research Institute, Tsukuba, Japan

<sup>3</sup>Meisei Electric Co., LTD., Isesaki, Japan

<sup>4</sup>National Research Institute for Earth Science and Disaster Resilience, Tsukuba, Japan

<sup>5</sup>Nagoya University, Nagoya, Japan

<sup>6</sup>Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology, Yokohama, Japan

選定理由:

熱帯低気圧の解析・予報においてドロップゾンデ観測の重要性は良く知られており、大西洋では現業でドロップゾンデ観測が実施されていた。現業観測が1980年代後半に終了した後は、ドボラック法により台風強度の推定がされている。しかし、ドボラック法には不確実性があるため、熱帯低気圧に関する正確な情報を得るには観測が重要であることには変わりはない。本研究で著者らは、2017年台風 Lan (台風21号) の航空機によるドロップゾンデ観測を実施し、観測データを同化することで台風の予報実験を行った。その結果、台風の解析・予報においてドロップゾンデ観測がプラスのインパクトをもたらすことを示した。本研究は、熱帯低気圧に対するドロップゾンデ観測の重要性を示し、熱帯低気圧の解析・予報の改善のための研究をさらに促進するものだと期待される。以上のことから、標記論文を SOLA 論文賞受賞論文として選定する。